



今年度の研究の検証の場の一つであるミニ授業研究会が今週から始まりました。小学部一年生の授業提示からスタートし、各学部の学習グループにて、ライフキャリアの視点（「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」）を具現化する授業が展開されます。ミニ授業研究会は、授業者だけではなく、参観者のメリットも多くありますので、同僚の授業を見る機会を大切にしていきたいと思います。

## 横手の先生方の「いいね！」

このコーナーでは、横手支援学校の先生方のよい授業（学習活動、支援内容、掲示物等）や児童生徒とのよい関わりなどを紹介していきます。

### ◆児童生徒の見本◆

今年度から生活目標、保健目標、学習目標を全校体制で達成していこうという取組を行っています。そこで、各学部・分掌部等での具体的な取組事項を決め、実践し、評価を行っています。このような取組の中、様々な場面で聞かれる言葉があります。それは、「まずは、教師が児童生徒の見本になる！」です。



児童生徒の成長する上で、人的環境が及ぼす影響は大きいものです。そのことを理解しているからこそ、多方面から上記の言葉が出てくるのだと思います。また、これは実際に実行してこそ威力が発揮されます。今一度、姿勢（足を組まずにいすに座るなどの座り方、立ち方）や関わり方（言葉使い、話し方、話す内容、聞き方）、行動（時間を守る、身だしなみを整える、机上や教室内の整理整頓）など児童生徒の見本になっているかを確認していきましょう。

## 授業づくりの<sup>わん</sup>ポイント

このコーナーでは、みんなが知っていることだけど、今一度確認しておきたい授業づくり（授業実践）のポイントを提示していきます。授業づくり（授業実践）の際に、意識してみましょう！

### ◆認知特性を生かした学習内容◆ （横手のスタンダード P2）

児童生徒が夢中になって学習に向かったり、学習内容を理解し学びを実感したりするための要素の一つとして、それぞれの得意な学び方や理解しやすい方法などの認知特性に着目することが挙げられます。

右の図は、ハワード・ガードナーによって開発されたマルチプルインテリジェントモデルで、人の脳の働きを8つの知能として説明しています。

児童生徒の中には、体験を通して学ぶのが得意な人や理屈を考えながら学ぶのが得意な人。また、物事を順番に聞いて理解する、視覚的な手がかりを基に全体から部分を考えるなど人それぞれで得意な学び方には違いがあります。

多様な学び方を支えるための授業づくりとしては、一人一人の得意な学び方を考慮すること、学習を意味付けしたり、地域資源を活用して本物の体験をしたりとそれらを複数組み合わせることで学習内容を展開していくことが大切です。一人一人に応じた最適な学び方を考えていきましょう。



MI ホイール(八つの知能)